

まるかる

知って！使って！「やさしい日本語」

いつ起こるか分からない自然災害。命を守るため、お互いに声をかけあい、助け合うことが重要です。そこに日本人・外国人の区別はありません。今回、1人でも多くの命を救うために有効なコミュニケーションツールとして「やさしい日本語」をご紹介します。

「やさしい日本語」って何？

- 阪神淡路大震災をきっかけに開発された情報伝達手段
- 日本語に不慣れな在住外国人のために、書き方や話し方をわかりやすくした日本語のこと。
- 近年は、外国人観光客や在住外国人との交流を促進する手段としても活用されています。



どうして「やさしい日本語」を使うの？

- 在住外国人の言語のニーズは「やさしい日本語」!
⇒多くの外国人住民は、簡単な日本語を理解することができます。



- 情報を迅速かつ正確に伝えることが可能!
⇒災害時などに、刻々と変化する情報を短時間で多言語化することは困難です。

- 日本人にもわかりやすい!



⇒高齢者や子ども、障害のある方などにも、わかりやすく伝えることができます。

etc...

外国人住民の90%
以上が、やさしい
日本語を理解可能
※秋田市国際交流スタッフ
2021参照

「やさしい日本語」を使ってみよう！～使用の主なポイント～



大まかな目安は…小学校1・2年生が理解できるレベルの言葉や文章



やさしにチェック
あなたの日本語の
やさしさをチェック!

主なポイント	具体例等
簡単な言葉や短い文章	(例)避難する、余震、洪水 → 逃げる、後から来る地震、川から水が来る
和製英語等に注意	(和製英語等の例)デマ、ペットボトル、タバコ ※なるべく使わないようにする
オノマトペは使わない	(例)今日はバタバタしている → 今日は忙しい
あいまいな表現は避け、 二重否定は使わない	(あいまいな表現例)「～くらい」「～ごろ」「など」「おそらく」「たぶん」 (二重否定例)「ないとは言えないけれど」
大きな声で、 ゆっくりはっきり話す	・主語、述語、目的語を省略しない ・話す内容に優先度をつける(重要度の高い情報に絞って話す)

「やさしい日本語」に「絶対」という正解はありません。

「やさしい日本語」を身につけ、誰もが生活をしやすく、支えあえる秋田市を目指しましょう!

秋田市日本語教室「特別クラス」を開催！



秋田市では、市内在住外国人を対象に、生活に必要な日本語を教える「秋田市日本語教室」を開講しています。今回は、書道や豆まきを通して日本文化への理解を深めるほか、受講生同士が日本語でのコミュニケーションを実践するため「特別クラス」を開催しました。



書道体験の様子



楽しく自分らしく書きました



豆まきの様子

令和6年度 秋田市の主な国際交流・国際平和関連事業等(予定)

時期	事業名等	概要
通年	秋田市日本語教室	市内在住外国人を対象に日本語教室を開催。（無料） 毎週火曜日、午後6時30分から8時、にぎわい交流館AUにて
通年	平和の朗読会	秋田市出身の女優・浅利香津代さんが市内の小学校で、平和に関する講話や絵本「はまなすはみた」を朗読し、平和の大切さ等の理解促進や平和意識の高揚を図る。
5月下旬	キナイ半島郡視察団受入事業	交流合意都市の米国・キナイ半島郡から、教育現場などを視察するための視察団を受け入れる。
7月下旬	被爆証言講話会	広島被爆体験伝承者、土崎空襲体験者らが、戦争の悲惨さや平和の大切さを語る講話会を開催。（参加無料）
8月上旬	パッサウ市姉妹都市提携40周年記念事業	提携40周年を記念し、ドイツ・パッサウ市から代表団等を受け入れるとともに、音楽コンサートや写真展を開催する。
8月下旬～10月下旬	蘭州市研修員受入事業	友好都市の中国・蘭州市から研修員4名（医師・教員）を2か月間受入れる。
9月上旬	秋田市国際フェスタ	各姉妹都市等の紹介パネルの展示、食文化・特産品等を紹介するブース、ステージイベント等を開催。（入場無料）
10月上旬	南寧市代表団受入事業	交流内容について協議するため、友好都市の中国・南寧市の代表団を受け入れる。

～「まるかる」への思い～

“Multiculture”のマルとカルに、秋田市に住む外国人も秋田市民の一員として、互いに手を取り、繋がって「まる(丸)」を作ること、お互いが理解し合い、心が「かる(軽)」くなる様子を、タイトルの丸みを帯びたフォントで表現しています。

お問い合わせ：秋田市企画財政部企画調整課 国際・都市間交流担当

TEL：018-888-5464 / FAX：018-888-5488

編集協力：秋田市姉妹都市フォーラム

バックナンバーは

こちら➡

